

31H 池島 柊斗    32H 野形 啓    32H 三浦 あい  
 35H 垣田 駿斗    35H 三野 陽愛    36H 小淵 裕香

■課題

「能登の里山の知名度の低さと担い手問題」

○里山とは？

人間の生産・消費活動の一環として利用される森や林のこと。能登半島が2011年に世界農業遺産に登録されたことから、里山と里山形成における問題に焦点を絞った。

■解決策

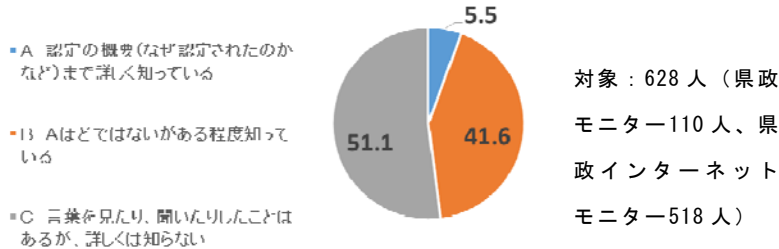
能登の里山の知名度を上げ、それによって里山の担い手の支援者を増やし、担い手問題を緩和する。



■現状

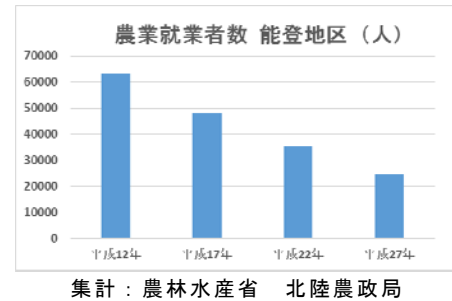
【課題1】能登の里山の知名度の低さ

石川県の調査<sup>1)</sup>より、「能登の里山里海について詳しく知らない」と回答した人が51.1%と半数以上であることから、石川県内でも知名度が低いことがわかる。



【課題2】能登の里山の担い手問題

石川県の調査<sup>2)</sup>より、能登地区の農業就業者数は5年ごとにおよそ1/4ずつ減少していることがわかる。



■具体的内容

【知名度を上げるための具体的取り組み】

○能登里山農業まつりの開催

田畑のオーナー制受付

農業に興味をもった人に手軽に農業生活を楽しめるオーナー制の申し込みができるようにする。



⇒農業の担い手の獲得・維持

収穫祭

地元食材を使った商品その場で提供できる即売会場や食堂、休憩場の設置



⇒能登の地物をアピール

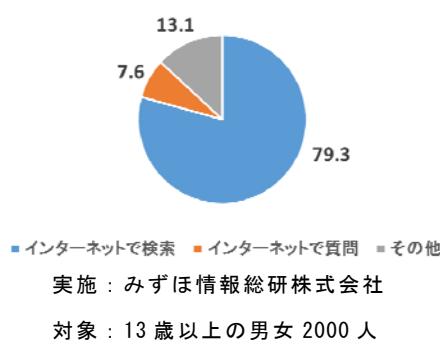
スマート農業の体験会

農業機械、農業用ドローン、自動運転のトラクターなどの操作体験



⇒現代の手軽な農業をアピール

商品の内容や評判について調べるとき



○インターネットによるイベントの広報

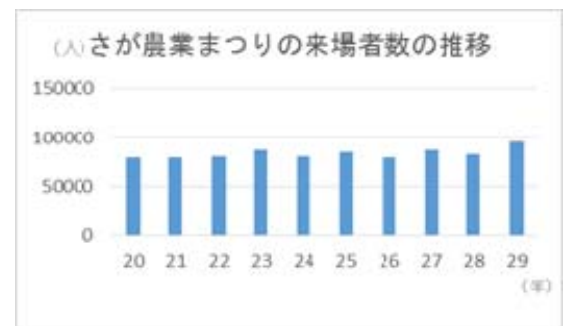
上の円グラフ<sup>3)</sup>より、情報収集の大半にインターネットが使用されているので、インターネットを用いて取り組みを告知することで、より効果的に発信して集客を狙う。

■効果

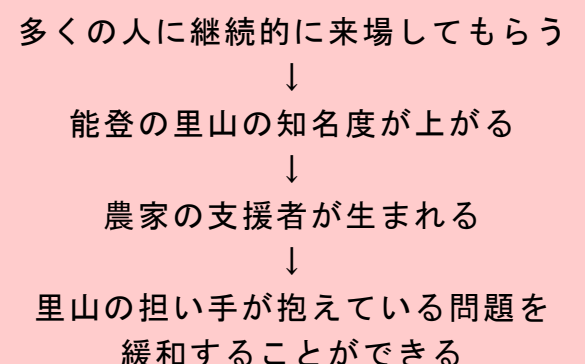
能登里山農業まつりを定期的で開催することで、継続的に多くの来場者数が期待される。

【例】さが農業まつり

J Aグループ佐賀が主催する、収穫祭やスマート農業体験などの体験・情報発信コーナーが多いことが特徴の県内最大規模の農業イベントである。



グラフ<sup>4)</sup>より、来場者数が毎年約8万人と安定している傾向がみられる。



■参考文献

- 1) 石川県ホームページ 「世界農業遺産『能登の里山里海』について」結果 <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kenmin/anketo/h25no1>
- 2) いしかわ統計指標ランド 石川県統計書 [http://toukei.pref.ishikawa.jp/search/min.asp?sc\\_id=97](http://toukei.pref.ishikawa.jp/search/min.asp?sc_id=97)
- 3) みずほ情報総研株式会社 「社会課題解決のための新たな ICT サービス・技術への人々の意識に関する調査研究 報告書」
- 4) 佐賀市ホームページ 「平成29年度版佐賀市統計データ」 <https://www.city.saga.lg.jp/main/49338.html>